

令和元年11月21日

令和元年度第8回アーバンデザインセミナー実績報告書

(1) 開催日時

令和元年11月16日(土) 10時30分～12時00分

※その後1時間の交流会(自由参加)あり

参加人数: 8名

(2) テーマ

「まちカフェを試してみよう! / つながる場からまちが動き出す☆」

→「上京朝カフェ」の事例を参照しながら、誰でも開催可能なまちカフェについて理解を深め、実践するセミナー。

(3) 話題提供者

石崎立矢(「上京朝カフェ」主催者/京都新聞社南部支社編集部長)

(4) 話題の概要

● 自己紹介

- 「上京朝カフェ」主催者、「上京ちず部」部長、京都新聞社南部支社編集部長。
- 3つに共通する思いは、放っておくと通り過ぎ、消えていってしまう情報をすくい取り、一覧してみんなが囲んで使えるようにしたいということ。



● 上京朝カフェの概要

- 毎月第4木曜の朝8時～9時半、上京区役所(区民交流会議室)にて定期開催。
- 予約不要、出入り自由、参加無料
- 参加者は20～30人程度、2割ぐらいが初参加

● 上京朝カフェの流れ

- 1、自己紹介シートに記入(持参チラシがあれば机に置く)
- 2、自己紹介シートをもとに、約1分間の自己紹介
- 3、後半の30～40分は自由交流時間

- 自由交流時間を大切に考えており、交流を促進させるための自己紹介である。
- 参加者の事例
 - ボランティアサークルの大学生
 - 商店街役員
 - 行政関係者
 - 個人商店の店主
 - 地域企業の社員
 - 自治会関係者 など
- 役割分担
 - まちづくりにおけるインキュベーション的な場は必要であるが、まちカフェはもっと最初の種まきや出会いを叶える場であるという位置づけ。
 - 学生や、移住者、地域デビューしたい人などに対して、まちへの入り口となる。
 - どんな人が、何をやりたいと考えているのか、どんな地域なのかを知る場。
 - 雑談から知恵やアイデアが生まれるブレインストーミング的な場。
- まちの情報を一覧できる地図
 - 白地図を囲むと、地図に載っていない情報が参加者から出てくる。
 - 例えば思い出話、おすすめスポット、まちの将来像など。
 - 地図を囲むとフラットな場ができる。「テーマ」と「ローカル」のつなぎ役になり得る。
- 上京朝カフェで生まれたもの
 - 町家保全の建築士×AIR に取り組むギャラリー代表
＝「路地」活用プロジェクト（子育て環境の住まい、アート制作・発表の場）
 - 2階に交流ホールのある信用金庫支店長×児童補装具店主
＝障がい児と家族のフリートークカフェを開催
 - 例えば上記のような事例があるが、この場がきっかけで生まれた事例の全てを把握できるわけではなく、また全てを把握すべき立ち位置でもない。
 - 見えてはいないものも含め、この場から生まれた事例は沢山ある。
- 場の有効活用
 - ニーズ・志を共有する人たち×場によって、場の有効活用の余地がある。
 - 公共施設、お寺、公園、河川敷、カフェ、個人宅、企業の開放空間、コワーキングスペースなど。

- 「パブリック・ハック」という考え方も参照できる。
- ローカルメディアの活用
 - SNS、ミニコミ・フリーペーパー、ロコミ、回覧板、プレスリリース、仲間との連携、テーマ性のあるカフェ、街の掲示板、ネットラジオなど様々なメディアの存在。
 - ローカルなテーマと掛け合わせて、有効に活用できる。
- 目指す地域社会
 - 地域で暮らしている人、活動しているごく普通の人々が、互いの得意なこと、困っていることをさりげなく分かち合っていて、なにか課題解決や楽しい取り組みに動き出そうとした時に、できる範囲でできる限りのサポートをし合える関係性を築いているまち。
 - そのために、地域にどんな人がいるか、どんな資源・課題があるかを、地図や情報拠点・サイトで一覧でき、時には場に集うことによって、必要な人・資源の情報を必要な時に、リアルタイムで手に入れられるまち。

(5) ワークショップ

- 「まちカフェ」を実践
 - 左のようなシートを配布し、参加者に記入してもらう。
 - シートをホワイトボードに貼り出し、それをもとに自己紹介タイム。
 - 講師のファシリテーションのもと、参加者同士でアドバイスが飛び交った。

このまちでの「ワクワク」・「モヤモヤ」 <small>伝えたいこと、実現したい夢、解決したい課題など</small>
<hr style="border: 0.5px solid black;"/> <small>それを実現するために必要と思うモノ・コト</small>
<small>氏名: _____ 活動エリア: _____</small>

(6) まとめ

前半のレクチャーではまちカフェとはどのようなものなのか学び、後半は実際にまちカフェを試してみた。10人未満という小規模での開催ではあったが、その分濃度の濃い参加者間コミュニケーションの機会となった。



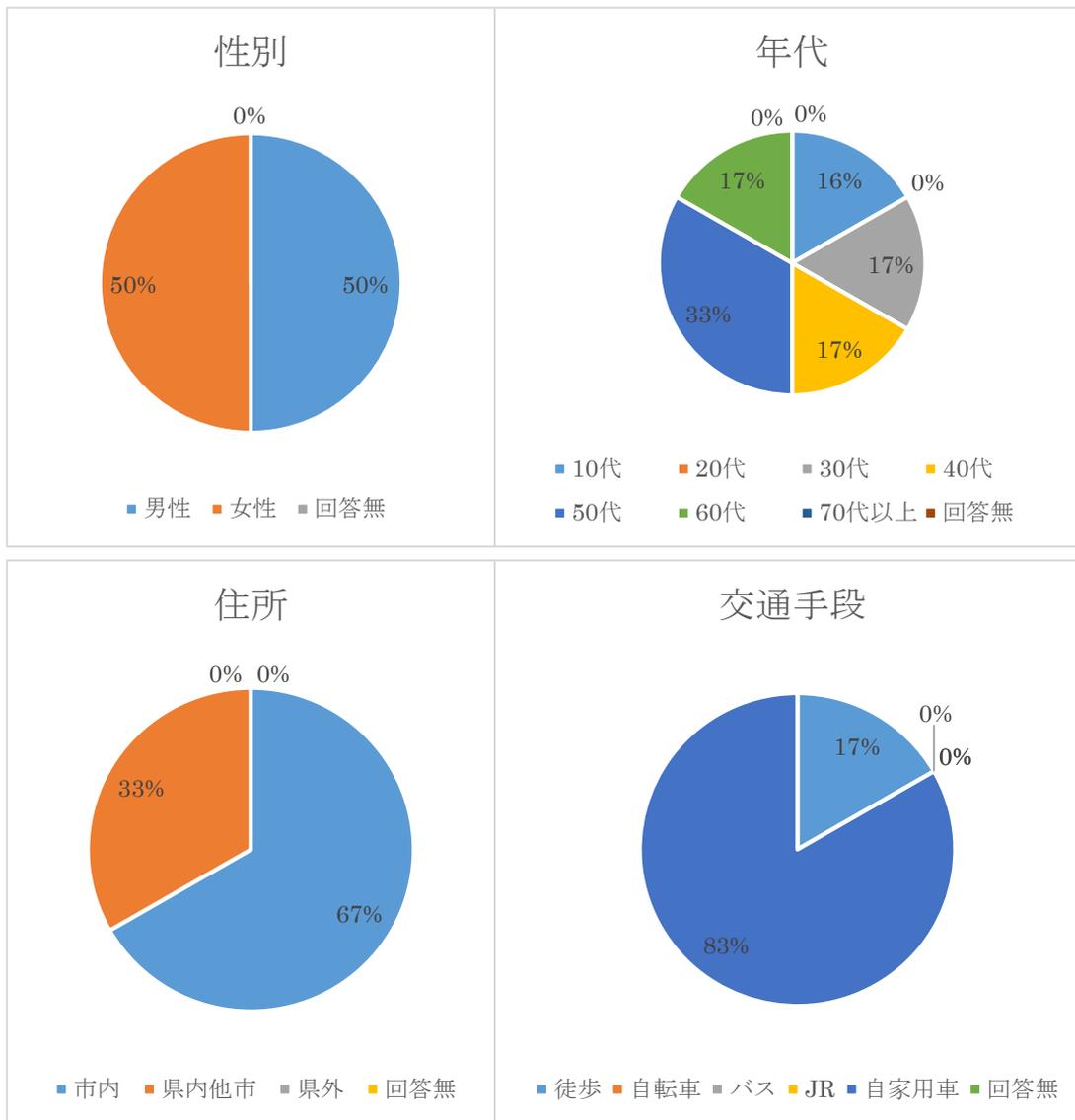
その後、再びUDCBKを訪れた際に「今度、上京朝カフェに参加してみようと思う」とおっしゃる参加者もいた。

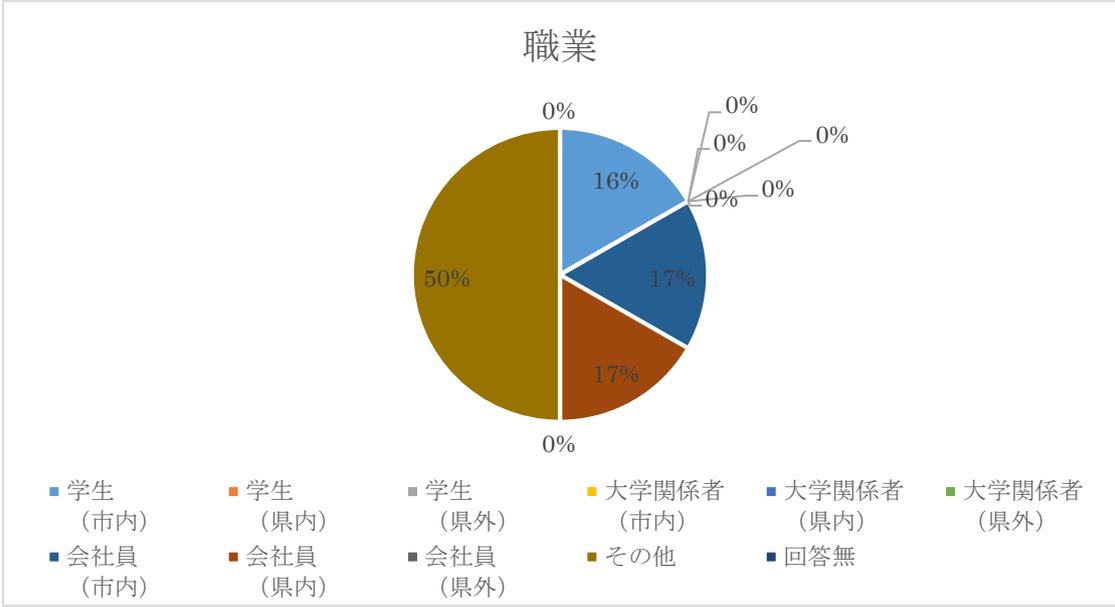
今回のセミナーの知見や、他都市で開催のまちカフェに参加して得た知見を、ぜひ各自の活動拠点に持ち帰って実践してもらいたい。

(7) アンケートまとめ

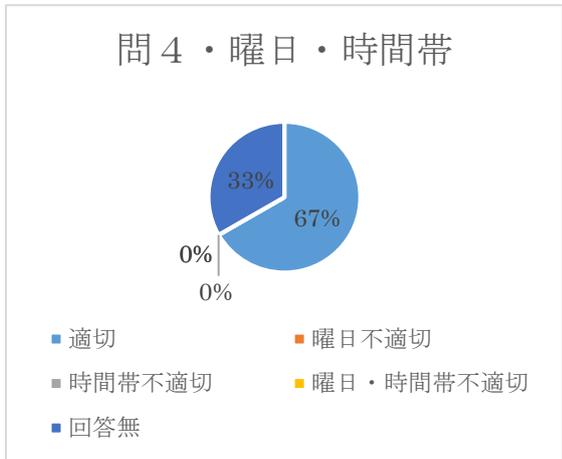
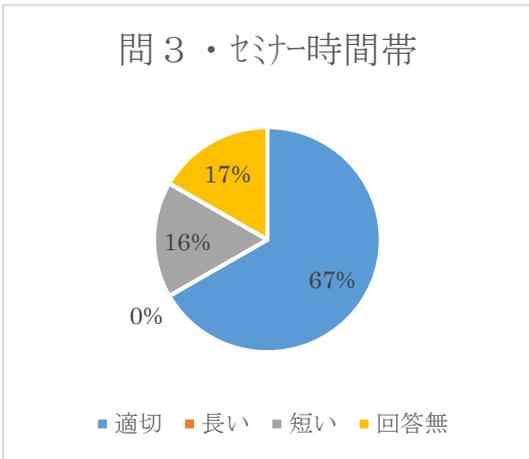
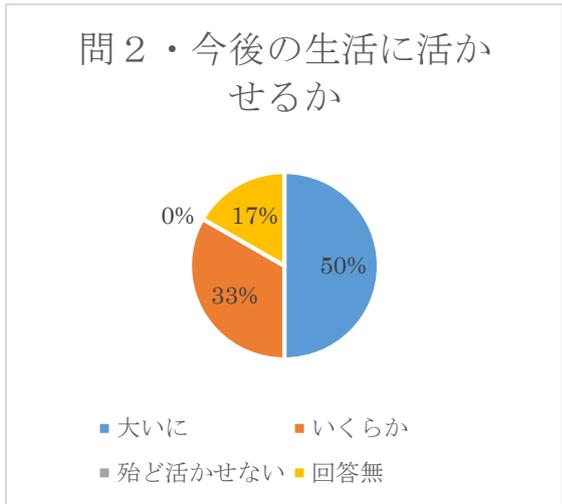
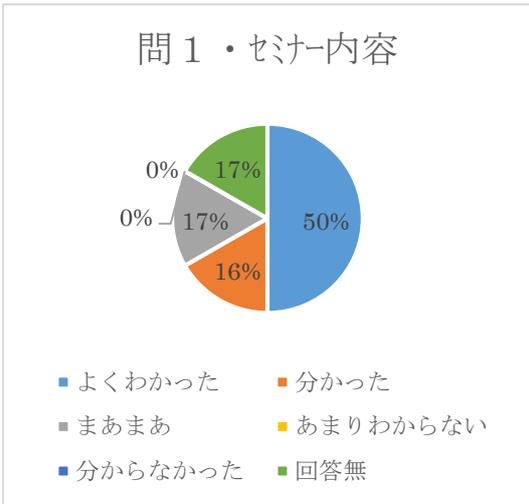
① 参加者属性

参加者8名のうち、アンケートに回答いただいた方は6名、回答率は75%だった。





② 内容について



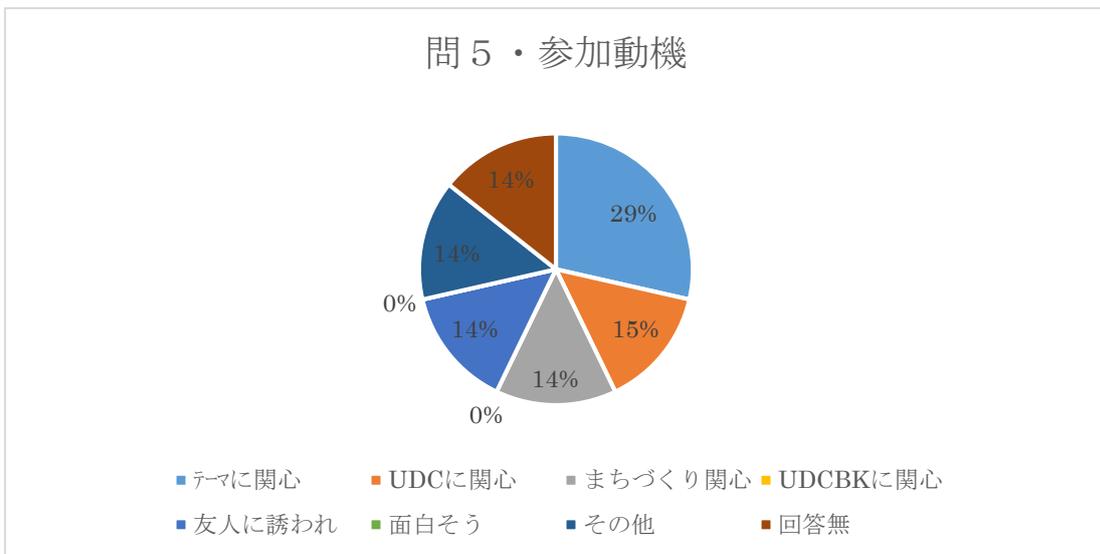
【自由記入欄回答】

問3. 時間はどうでしたか。

回答なし

問4. 開催曜日、開催時間は適切でしたか。

- ・土曜日の12時頃が適切（50代男性）



【自由記入欄回答】

問5. 今回参加した動機についてお聞かせください。それぞれに関心のあるテーマについて御自由に記載ください。

回答なし

【自由記入欄回答】

問6. 今回、印象に残ったこととその理由をお聞かせください。

- ・簡単に始められる具体策（白地図からの地図づくり）を実行してみようと思いました。ですので、理論だけのセミナーでなく解決策をみいだせるセミナーであったと思います（40代女性）
- ・お互いの思いを話すだけで、次々とながりが生まれることが実感できました（60代女性）